

動物医療従事者の職場における 喫煙状況に関する調査結果



大阪コミュニケーションアート専門学校
エココミュニケーション科
動物看護師専攻

はじめに

動物達は人間よりも嗅覚が発達していること

ペットブームと言われ伴侶動物として
家族同然に暮らす人も多いこと

人の疫学調査により副流煙の害が主流煙
よりも大きいこと

WHOの提唱する世界禁煙デーの活動に
動物医療従事者の参加がないこと

なぜ禁煙活動をしないのか？



人間の医療現場



動物医療の
現場は？

動物医療従事者である私達
(獣医師・動物看護師など)



飼育者の健康は
伴侶動物の福祉に影響する



動物医療従事者を対象にアンケートによる
意識調査を行った

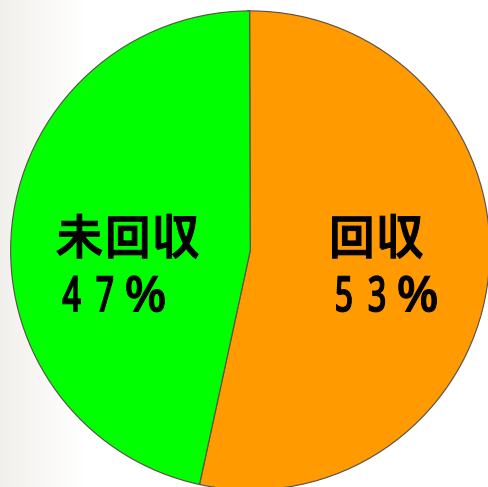
「タバコ」
非喫煙者や
動物達にも
害がある

対象と方法

- 動物看護師専攻の2年次10月に実施される、業界研修の時に、研修先となる動物病院の職員(獣医師・動物看護師・受付・事務職・トリマー等)を対象者とした
- 事前に作成したアンケート用紙を持参し答えていただく

結果1 回収率

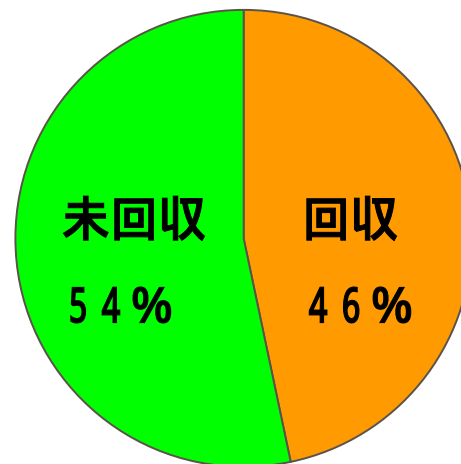
2005年



研修参加者159名
回収85枚
未回収74枚

回収率は
減少した！！

2006年



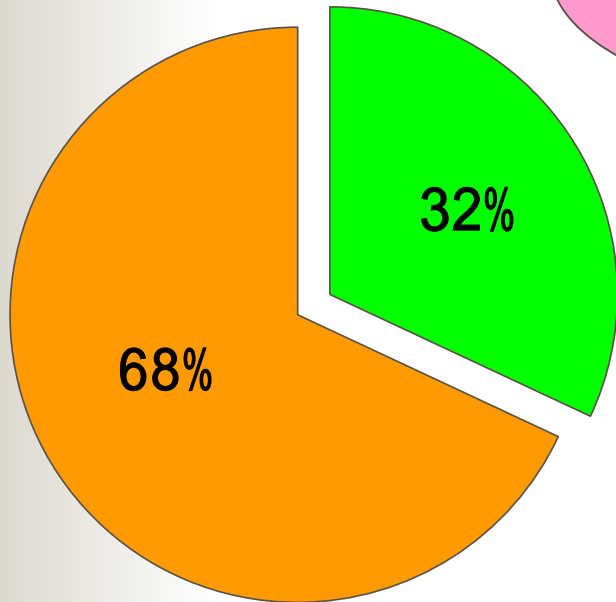
研修参加者105名
回収49枚
未回収56枚

結果2 世界禁煙デーの認知度

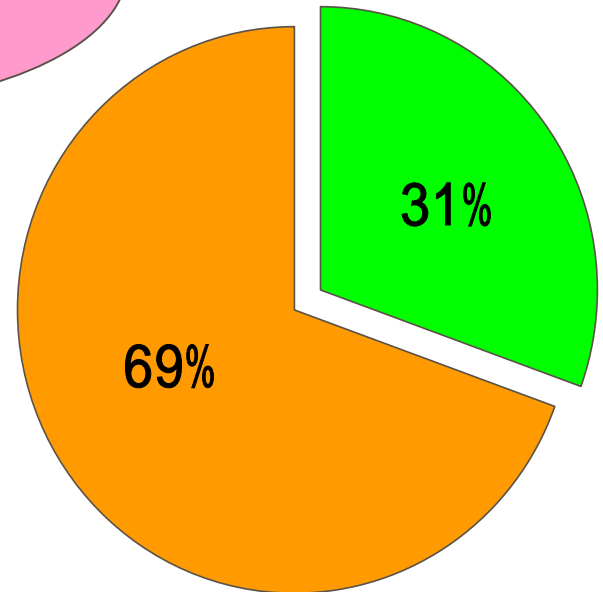
2005年

認知度は若干
減少した！！

2006年



■ 知っている (名前だけ含む)
■ 知らない



■ 知っている (名前だけ含む)
■ 知らない

結果3

■ スタッフの喫煙についてどう思うか？

- 1位 院内は禁煙だが個人の自由なので干渉しない
.....24%
- 2位 院内は禁煙なので喫煙するスタッフはいない
.....22%
- 3位 喫煙スペースを設けている
.....14%
- 3位 喫煙者は臭いに気を配っている
.....14%

■ 喫煙者への指導についてどう思うか？

- 1位 副流煙の被害が動物にもあるのでよくない
.....35%
- 2位 動物医療従事者として動物飼育者には動物の前での喫煙をやめさせたい
.....21%
- 3位 自分も喫煙者だが動物の前では喫煙しない
.....16%

まとめと考察



喫煙者への指導は副流煙を理由に
やめさせたい

スタッフの喫煙に関しては個人の自由なので
干渉しない



喫煙の害に関して一貫した認識の欠落



医療従事者として意識改革が必要

意思表示



非喫煙者の「受動喫煙を避けたい・したくない」という意思表示のステッカーです



ハートマークは喫煙者がこの活動に賛同しステッカーを貼っている人の前では喫煙しないという意思表示を表しています

これからの活動について

動物たちの「吸わされない権利」を訴えていきたい



「タバコ」についてもっと勉強する



「タバコ」の害についてもっと知ってもらう



「タバコ」の害を防ぐ努力をしていく

